

総合型選抜(学びの体験方式)

専願

入学選抜詳細

総合型選抜(専願)(学びの体験方式)

1 日程

出願期間	試験日	試験会場	合格発表日	一次手続き (入学金納付期限)	二次手続き (学納金等納付期限)
9月21日(木) ～10月3日(火)	10月14日(土)	広島(本学)	11月1日(水)	12月11日(月)	2024年 3月21日(木)

2 募集人員

教育学科 初等教育専攻	教育学科 中等教育専攻	人間福祉 学 科	心理学科	人間栄養 学 科	グローバルコミュニケーション 学 科
12名	3名	10名	8名	10名	10名

3 出願資格

- ① 本学の「アドミッション・ポリシー」並びに志望学部・学科の「アドミッション・ポリシー」を十分に理解し、志望学部・学科で学びたいと強く希望している者(※アドミッション・ポリシーは、本冊子P. 1でご確認ください)
- ② 次のいずれかに該当する者で、入学を希望する学部・学科での学修に強い意欲を持ち、かつ、合格した場合本学に入学することが確実な者
 - ・高等学校又は中等教育学校を卒業した者及び2024年3月卒業見込みの者
 - ・通常の課程による12年の学校教育を修了した者及び2024年3月修了見込みの者
 - ・学校教育法施行規則第150条の規定により高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者及び2024年3月31日までにこれに該当する見込みの者

4 入学検定料

20,000円 入学検定料の他に、インターネット出願システム手数料900円が必要となります。

5 出願書類

- ① 入学志願票・写真票
- ② 志望理由書
- ③ 調査書(文部科学省所定の様式により出身学校長が作成し、厳封したものに限り)



6 試験方法／配点と総点

『学びの体験プログラム』『個人面接』『提出書類』の内容から総合的に判定します。

試験方式	学びの体験プログラム	個人面接	調査書	総点
学びの体験方式	150	100	50	300

7 事前学習に関する個別相談

各学科の示す事前学習は受験対策としてとても有効です。広島文教大学では、事前学習や受験に関する不安・疑問を解消するために、オープンキャンパスで大学教員等との個別相談を受け付けますので、積極的に活用してください。

<オープンキャンパス>

6月18日(日)、7月23日(日)、8月5日(土)、8月18日(金)

※個別相談は必須ではありません。

※オープンキャンパス以外で個別相談を希望する場合には入試広報課までご相談ください。

8 試験当日のスケジュール

時間	内容(全学部・学科共通)	
9:00～	受付開始	
9:50	受験生入室完了	
10:00～12:00 (120分うち10分休憩)	学びの体験プログラム	前半は、各学科の専門性に沿ったグループワーク・講義体験などが行われます。後半は、前半の活動を受けて、レポート作成などが課されます。持ち込んでよい資料などは学科により異なります。各学科の詳細は本冊子P. 10～14をご確認ください。
12:00～12:40	休憩(昼食)	
12:40～13:00	面接室への誘導	
13:00～ (一人15分)	個人面接	受験生1人、面接官2名による個人面接です。15分の時間の中で、志望理由、将来展望、当日の取り組みの内容などについて問われます。※面接中は資料やメモなどを見ることはできません。

9 入学前学習

高等学校等での学習と大学での学修の接続をはかるとともに、入学後の学びへ向かって自ら学ぶ姿勢を養うために、総合型選抜の合格者は次の3点を重視した『入学前学習』に取り組んでもらいます。

- ・e-learningなどを活用した基礎学力アップのための学習
- ・入学学科の専門的な学びへの準備
- ・自ら学ぶ姿勢・学習習慣作り

10 学びの体験プログラムの詳細

教育学科 ※初等教育専攻・中等教育専攻共通

内容とテーマ

内 容：グループディスカッション（60分）、レポート作成（50分）

テーマ：「学びのたのしさについて考えてみましょう」

みなさんはこれまで「学びのたのしさ」について考えたことはありますか。みなさんは生まれてから、今日まで歩んできた道のりのなかで、どのような「学びのたのしさ」と出会い、経験してきたでしょうか。また一方で、みなさんの過去の経験のなかには「学びのたのしさ」を感じられなかったこともあるかもしれません。それでは、この「学びのたのしさ」とは、いったい何なのでしょう。

幼児は、日々、遊びや生活を通して総合的に学び、小学校以降の児童生徒は、各教科等の学習内容を系統的に学んでいます。現在の学校教育では、幼児が身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむなかで充実感や達成感を味わうという体験を重ねていくことや、児童生徒の興味・関心を生かした主体的な学習が促されるよう工夫することが重視されるなど、全ての幼児、児童生徒の可能性を引き出す学びの姿の実現が目指されています。教育学科の学びの体験プログラムでは、そうした学びの過程における様々な場面でのみなさんの経験から「学びのたのしさ」とは何かについて考えてもらいます。

グループディスカッションでは、みなさんが経験した「学びのたのしさ」をもとに話し合ってもらいます。まず、各自が過去に経験した「学びのたのしさ」の具体例を1人ずつメンバーに説明します。次に、メンバーそれぞれが持ち寄った経験から、当日示される話し合いの視点に沿って、質疑応答を行ったり、自身の考える「学びのたのしさ」を説明したりしながら、グループ内で「学びのたのしさ」について話し合っていきます。このグループディスカッションでは、主体的に取り組む力や考えを伝え合う力、協働して考えを深めていこうとする力などが求められます。

レポート作成は、事前学習やグループディスカッションをふまえて、テーマに関する内容を600～800字にまとめます。レポート作成では、思考力や構成力、表現力などが求められます。

事前学習

みなさんの経験した「学びのたのしさ」について具体的に考えましょう。自身の過去の経験を振り返り、身近な人にインタビューをするなど多角的に情報を収集し、自分の考えをまとめてください。みなさんの経験については、それが「①いつ」「②どのような内容」の経験だったのか、そして、その経験が「③なぜたのしいと感じたのか」を考えましょう。①は10字以内、②は30～50字、③は20字以内にまとめたもの（句読点を付ける場合は、句読点も字数に含む）を、当日、ワークシートに記入してもらいますので、ノートなどに書いてきてください。また、その経験をふまえたうえで、自身の考える「学びのたのしさ」とは何かについても、あらかじめ考えをもっておいってください。

持ち込んでよい資料等

持ち込んでよいもの*	持ち込むことができないもの
・事前学習で参照したもの ・事前学習でまとめた資料やノートなど(自分でまとめたもの)	・iPad、PC、スマートフォン、タブレットなどの電子機器

*ただし、ワークシートに記入する間に限ります。グループディスカッション中およびレポート作成時は、プログラム中に使用・作成したものに限り持ち込むことができます。

取り組むうえでのキーワード

学びのたのしさ、深い学び、主体性、協働

内容とテーマ

内 容：講義体験（50分）、ワークシート作成（60分）

テーマ：「誰もが快適な学校生活のために新たなボランティア活動を創ってみましょう」

人間福祉学科では、「生活」に焦点を当て「生活のしづらさ」への支援を考え実践することを学修します。「生活」には、どのようなことが影響しているのでしょうか。

今回のテーマは、「誰もが快適な学校生活のために新たなボランティア活動を創ること」です。あなたの周囲で、学校生活を困難にしていること、例えば、環境・健康（疾病、身体機能など）・人間関係などの問題を見つけてください。事前学習では、あなたが発見した学校生活をしづらくしている事象や出来事に対して新たなボランティア活動を創って支援することを考えます。学校は小学校、中学校、高等学校いずれでもかまいません。テーマを考える対象としては、友人、上級生・下級生を含めたあなたの周囲まで視点を広げて考えてください。

当日の講義体験では、ボランティアの支援内容を考える視点や、グループの創り方について50分の講義を受けます。その後、配付する「ワークシート」を使って自分の考えを60分で整理します。ワークシート作成では、講義体験・講義メモ・事前学習の内容を踏まえてワークシートにある「必要項目」に従って考えをまとめます。

この講義体験及びワークシート作成では、よりよい学校（社会）をつくらうとする意欲と、自ら問題を発見する力、問題に関する情報を収集しまとめる力、そしてその問題を解決する方法を考える力が求められます。

参考資料

○文部科学省

「家庭や学校における生活や意識等に関する調査」報告書

https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/001/_icsFiles/afieldfile/2015/07/29/1360263_1.pdf

○内閣府

平成25年度小学生・中学生の意識に関する調査報告書（PDF版）

https://www8.cao.go.jp/youth/kenkyu/thinking/h25/junior/pdf_index.html

○独立行政法人国立青少年教育振興機構

調査研究報告書 高校生の生活と意識に関する調査報告書—日本・米国・中国・韓国の比較—

https://www.niye.go.jp/kenkyu_houkoku/contents/detail/i/98/

○東京ボランティア・市民活動センター「ボラ市民ウェブ」

グループ・団体をつくらう! その1 ボランティア・グループや市民活動団体をつくる前に

<https://www.tvac.or.jp/shiru/unei/index.html>

事前学習

事前学習では、①学校生活であなた自身に起きる事象や出来事、②学校生活で友人、上級生・下級生を含めたあなたの周囲に起きる事象や出来事、③それらの中で、学校生活を困難にしていること、④学校生活を困難にする出来事を解決する新たなボランティア活動の内容、⑤新たなボランティア活動を始めるために必要な条件や準備、の順序で、考えをノートなどにまとめておいてください。考える際には例えば、「ひと・もの・場所・時間・情報・お金（経費）」に分けて考えてみるとスムーズに考えられるのではないのでしょうか。上記の参考資料以外にも独自に本を読んだり、インターネットで資料を検索したりしても構いません。

持ち込んでよい資料等

持ち込んでよいもの	持ち込むことができないもの
<ul style="list-style-type: none"> 事前学習で参照したもの 事前学習でまとめた資料やノートなど(自分でまとめたもの) 講義体験時のメモ 	<ul style="list-style-type: none"> iPad、PC、スマートフォン、タブレットなどの電子機器

取り組むうえでのキーワード

自発性、公共性、創造性、コーディネート、共生社会

内容とテーマ

内 容：講義体験（60分）、レポート作成（50分）

テーマ：「『記憶』のしくみについて心理学の見方で考えてみよう」

学校の授業では、今まで知らなかった新しいことを教わる場面が多くあります。たとえば、英語の教科においては、英単語の意味や発音にスペル、実際の会話での使用法などを学習するでしょう。授業で教わったことを授業外でも活用できるようになるためには、教わったことを覚えるという作業が欠かせません。英単語学習の例でいえば、私たちは英単語を理解し知識とするために、その単語をくり返し唱えたり、ノートに書きだしたりするなどのさまざまな工夫を試みます。このとき、うまく覚えるためのコツがないか、考えたり調べたりしたことのある人も多いでしょう。

このプログラムでは、みなさんにとって身近な「学び」を題材に、私たちの記憶が成り立つしくみについて、簡単な実験やグループワークを通して考えていきます。これにより、心理学という学問を通じた考え方の基本を体験してもらいます。その上で、心理学の知見に基づいたとき、よりよい記憶のためにはどのような工夫ができるのかを考えていきます。その後のレポート作成では、事前学習や当日の講義体験を踏まえて、テーマに関する内容を800字程度でまとめてもらいます。

講義体験では、講義内容を理解しようとする学びに対する意欲が求められます。レポート作成においては、グループワークで得た他者の意見も踏まえながら自らの考えを整理し論じる思考力・判断力、それを他者に伝える表現力が求められます。

事前学習

参考資料を確認するほか、キーワードを用いた情報収集を行う等して、次の2点について自分の考えをノートなどにまとめておきましょう。

- ① よりよく覚えるための工夫としてすでに実践していると思うもの
- ② よりよく覚えるための工夫としてこれから試してみたいと思うもの

参考資料

- ① 日本心理学会「記憶研究から学ぶ効果的な学習法_小林 正法_高校生のための心理学講座(日本心理学会)_22 (動画)」
<https://youtu.be/rM2gbFE4Bwc>
- ② 市川伸一「Psychology for U-18 高校生に伝えたい記憶の心理学」日本心理学会機関誌心理学ワールド98号
<https://psych.or.jp/publication/world098/pw21/>
- ③ 『記憶と情動の脳科学—「忘れにくい記憶の作られ方」—』
著者：ジェームズ・L・マッガウ 大石高生・久保田競(監訳)／発行年：2006年／出版社：講談社 [1,078円 (税込)]

持ち込んでよい資料等

持ち込んでよいもの	持ち込むことができないもの
<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習で参照したもの ・事前学習でまとめた資料やノートなど(自分でまとめたもの) ・講義体験時のメモ 	<ul style="list-style-type: none"> ・iPad、PC、スマートフォン、タブレットなどの電子機器

取り組むうえでのキーワード

記憶方略、短期記憶、長期記憶、忘却曲線

内容とテーマ

内 容：講義体験（50分）、レポート作成（60分）

テーマ：「食料問題からSDGsについて考えてみよう」

世界では食料生産量の3分の1に当たる約13億トンの食料が毎年廃棄されています。日本でも1年間に約522万トン（2020年度推計値）もの食料が捨てられており、これは東京ドーム5杯分とほぼ同じ量。日本人1人当たり、お茶碗1杯分のごはんの量が毎日捨てられている計算になります。その一方で、途上国を中心に約8億人（約10人に1人）が十分な量の食べ物を口にできず、栄養不足で苦しんでいます。このような現状から、2015年の国連サミットで採択された「持続可能な開発目標（SDGs、Sustainable Development Goals）」では17の目標（ゴール）と169のターゲットが示され、その中では食品ロスや貧困の問題、或いは食料の損失・廃棄の削減についても取り組みが進められています。

そこで講義では、食品ロスや食料問題をとりまく世界や日本の現状についてSDGsの目標2「飢餓をゼロに」、目標12「つくる責任つかう責任」の2つの観点から解説します。食品ロス削減に向けてどんな取り組みができるかを一緒に考えましょう。

講義体験では、講義内容を理解し、自分の生活や体験と照らし合わせて考える力が求められます。

レポート作成では、事前学習した資料や講義内容を踏まえて、自分の考えを簡潔にまとめ、文章で表現する力が求められます。

事前学習

参考資料の消費者庁、農林水産省の資料及び図書を確認し、食品ロスの現状を調べておきましょう。また、国や地方自治体或いは企業が取り組んでいる食品ロス削減に向けた活動をノートなどにまとめておきましょう。

参考資料

- ① めざせ！食品ロス・ゼロ（消費者庁）
<https://www.no-foodloss.caa.go.jp/index.html>
- ② SDGs×食品産業（農林水産省）
<https://www.maff.go.jp/j/shokusan/sdgs/index.html>
- ③ 『食料危機～パンデミック、バツタ、食品ロス～』
 著者：井出留美／発行年：2020年／出版社：PHP研究所 [1,045円（税込）]

持ち込んでよい資料等

持ち込んでよいもの	持ち込むことができないもの
<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習で参照したもの ・事前学習でまとめた資料やノートなど(自分でまとめたもの) ・講義体験時のメモ 	<ul style="list-style-type: none"> ・iPad、PC、スマートフォン、タブレットなどの電子機器

取り組むうえでのキーワード

SDGs、食品ロス削減、食料問題、栄養不足

内容とテーマ

内 容：講義体験（60分）、レポート作成（50分）

テーマ：「あなた自身で出来るSDGs活動を考えてみよう」

SDGs (Sustainable Development Goals) は、2015年9月に開催された国連サミットにおいて加盟国の全会一致で採択された2030年を目標年次とする国際目標です。経済、社会、環境という幅広い分野を対象とし、17の目標(ゴール)と目標をより具体的に表した169のターゲットがあります。最近では、多くの学校で教材として学習することが増え、SDGs活動を行ったことがある学生も増えています。

事前学習では、皆さん自身が大学生活においてSDGs活動を行うとすると、どのような活動ができると思うか、ノートなどにいくつか箇条書きにまとめてみてください。講義体験当日は、事前にまとめた内容を発表してください。それに対して、教員がコメントする形で講義を行います。

講義体験後のレポート作成では、事前に考えてきた内容に加え、講義体験での教員からのコメントも踏まえ、あなた自身が行うとするとどのような活動が考えられるか、800字程度のレポートにまとめて提出してもらいます。

この講義体験及びレポート作成では、SDGsという題材を使って、自ら課題解決法を考察するPBL授業（課題解決型授業）を体験します。正解のない問題を自ら考えようとする意欲や、自分の考えを他者に伝えるコミュニケーション力、言葉にまとめる表現力などが求められます。

事前学習

SDGsに関して、以下の参考資料を読んでみましょう。暮らしの中でできる様々なSDGs活動が書かれています。このほかにも、多くの図書が出版されているほか、インターネット上でも多くの資料を見つけることができます。また、インターネットで「広島文教大学SDGs研究会」で検索すると、グローバルコミュニケーション学科のSDGs活動が取り上げられています。こちらも参考にしてください。

参考資料

- ① 「持続可能な開発目標（SDGs）の推進と消費者政策」
消費者庁ホームページ： https://www.caa.go.jp/about_us/about/plans_and_status/sdgs/
- ② 『暮らしのなかのSDGs 今と未来をつなげるものさし』
編者：アノニマ・スタジオ／発行年：2020年／出版社：KTC中央出版 [1,650円（税込）]

持ち込んでよい資料等

持ち込んでよいもの	持ち込むことができないもの
<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習で参照したもの ・事前学習でまとめた資料やノートなど(自分でまとめたもの) ・講義体験時のメモ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ iPad、PC、スマートフォン、タブレットなどの電子機器

取り組むうえでのキーワード

SDGs、課題解決力、コミュニケーション力、表現力